

**第2回横浜市港北区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会議事録**

日 時	平成 28 年 3 月 25 日(月) 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで	
場 所	港北区役所 1 号会議室	
出 席 者	和委員長、飯島委員、田中委員、福松委員、松村委員、村野委員、	
欠 席 者	なし	
開 催 形 態	公開（傍聴者なし）※ただし、議題 2 以降は非公開	
議 題	1 面接審査 2 審査・選定	
決 定 事 項	次の法人を指定候補者として港北区長に報告する。	
	施設名	指定候補者
	横浜市日吉本町地域ケアプラザ	社会福祉法人 緑峰会
議 事	<p>会議の公開・非公開について、第 1 回選定委員会で決定したとおり、面接審査は公開とするが、その後の審査・選定は非公開とすることを確認。また、事務局より資格審査結果について報告。</p> <p>1 面接審査 ・法人からのプレゼンテーション 10 分、質疑応答約 20 分で実施。</p> <p>○ 横浜市日吉本町地域ケアプラザ 社会福祉法人 緑峰会</p> <p><b>【法人によるプレゼンテーション】</b></p> <p><b>【質疑応答】</b></p> <p>(委 員) 職員のスキルアップについて、法人の理念等を展開していくためにはレベルの高い職員が必要になってくると思うが、どのような取組を行なっているか。また、レベルの高いスタッフを集めるとコストが高くなると思うが、どのようにコントロールしていこうと考えているか。</p> <p>(法 人) 部門ごとに持つべきスキルが異なるので、それぞれのスキルを磨くために、外部研修には積極的に参加している。研修の内容にあった適切な職員を派遣し、その成果をきちんと報告してもらっている。また、内部研修の充実を図るため、部門ごとに担当を決めて研修担当チームづくり、各部門共通で実施できるものは共通で、個々の部門のスキルに関するものは各々でと、研修内容を整理しながら年間スケジュールを立てている。また、机上の研修だけでは身につけられないものがあるので、現場でいろんな経験をしてもらい専門職としての幅を広げてもらいたいと考えている。</p> <p>経営面に関しては、指定管理料は上限が決まっているため、デイサービス等の介護サービス部門で補っている。収入と支出のバランスを確認しながら、これからは運営には十分配慮していきたい。また、利用者にとっても質の高いサービスを提供していくため、そこにも資金を投入していきたい。職員のスキルを向上させることがサービスの質の向上にもつながるので、そういった育成には力を入</p>	

れていきたいと考えている。

(委員) 多くの活動を展開されているが、継続していくもの、統合するもの等をどのように考えているか。また、職員の事業や研修にかかる時間と予算をどのように確保しているのか。

(法人) 最初の5年間はケアプラザを地域に知ってもらうための周知活動に力を入れてきた。エリアが広域で、ケアプラザ周辺だけでは日吉全域の方々にケアプラザの存在を知ってもらうことは難しいため、出張相談会や出前講座にかなり時間を割いてきた。事業を周知するためには町内会長や自治会の方々の力添えがないとできないので、そういったところからケアプラザの存在を知ってもらい、地域とつながりを持ちながら周知してきた。その役割については一つ区切りがついたと思えるくらい、ケアプラザの認知度は地域全体に広がったと感じている。ただ、高齢に特化してきた部分があり、子育て世代やこの数年間に移り住んでこられた方々に対する啓発はできていない部分もある。業務を整理しながら、これから力を入れていくべきところを検討しているところである。限られた人材と時間の中でやっていくために、業務整理は毎年やっていきたいと思っている。

(委員) 出前講座から自主活動に発展していった例はあるか。

(法人) 例えば、出張ミニ講座で健康体操を行った場合、出張ミニ講座だとどうしても単発の事業になるが、その会場で活動している体操グループにつなげたりしている。そうすることで、これまで活動していたグループの人数が増えて活性化する。

(委員) 丘の上の方の方たちへのアプローチはどうか。

(法人) そういった地域の方たちにケアプラザまで来てもらうのは難しいと思うので、こちらからが外向いている。また、同じ日吉地区に下田地域ケアプラザがあるため、下田地域ケアプラザと協力し、お互いに情報共有しながら、地域の方の足が運びやすいところを案内している。高齢になってなかなか出てこられないところにお住いの方もおり、活動範囲がどんどん狭くなってきている。そういった方たちに、どのように地域に出てもらうかが今後の大きな課題だと思う。

(委員) ボランティアとはどのように関わりを持っているのか。

(法人) 日吉は地区によってボランティア会があり、それぞれの定例会にケアプラザも参加させてもらいながら、お互いに連携をとっている。何が課題かを話し合い、ケアプラザが募集している人材や、地域にあるボランティア会が募集したい人材などをお互いに共有している。

ボランティアは高齢化してきているが、どうやって若い人を取り込んでいくかについては、まだ具体的な対策は見つかっていない状況。

(委員) 今後、法人として、地域包括ケアシステムの中でケアプラザをどのように運営していこうというビジョンをもっているか。

(法人) 地域包括ケアシステムの実現に向けては2年くらい前から意識して計画を立ててきた。それぞれの部門の相談や支援から地域の実情を把握するよう心掛けてきた。介護と医療の連携については、介護保険が始まった当初から続けてきているが、地域包括ケアシステムではそこに地域とのつながりをつくらないといけない。下田地域ケアプラザと2館で日吉全体を見渡しながら、三者の連携やつながりをどうやって作っていくのが望ましいか考えている。特に医療と地域とのつな

がりづくりが一番難しいと思っている。これまで築き上げてきた専門職士のつながりとコーディネーターと地域とのつながりをうまく融合させ、地域の理解を深め、地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを支えていきたい。

## 2 審査・選定

財務状況評価について報告。

### 【審査結果】

施設名	応募法人名	得点
横浜市日吉本町地域ケアプラザ	社会福祉法人 緑峰会	1,108点 / 1,200点

審査の結果、最低制限基準の総合計の6割を満たしているため、応募法人を指定候補者に選定することを全員一致で決定。

### 【講評】

よくやっている法人だと思う。歴史も30年以上あり、経営自体もしっかりしている。開所当初から周知活動に力を入れており、様々な形で地域に出向いてケアプラザを知ってもらった努力の結果が各事業にもつながっている。また、人材育成にかなり主眼を置いており、スタッフもさることながら、地域の人材発掘を熱心にやっており、社会資源の開発もできている。特に中学生を対象とした取組を丁寧に行っているのも大きな特徴だと思う。日吉地区には大学もあり、地域包括ケアシステムを考えていく中でどうやって若い人材を巻き込んでいくかということも課題かもしれないが、それぞれの課題に対してもこの法人ならできるのではないかと期待している。是非がんばってもらいたい。